

わが町の大名行列

私が住んでいる相模湖町寸沢嵐と相模川をはさんで向かい合う小原地区に神奈川県で一つだけ今も残っている「本陣」があります。本陣とは大名の宿のことで、江戸時代に参勤交代で江戸と領国を往復した大名が宿泊する施設でした。江戸・日本橋を起点にした甲州街道(甲州道中)沿いの小原宿は、内藤新宿、府中、八王子、小仏などを経て九番目の宿場にあたります。旅館(はたご)は七軒あり、街道を往来するさまざまな旅人、富士山や身延山などにお参りする「講」の人たちなどが泊まったといわれています。本陣の施設としては古くから小原に住み、地区の庄屋を務めた清水家の家屋が使われました。現在は県指定重要文化財となっています。

立派な門構えの屋敷の内側をのぞいてみましょう。屋敷を囲む庭の眺めがいちばんいい部屋が「上段の間」です。大名が泊まった部屋で、二間の床の間と燈床があります。大名専用の厠(かわや)は畳敷きで、便の受け皿は引き出し式の砂箱になっています。家臣が便を検分して大名の健康状態を把握するためと言われます。このほか茶の間、広間、裏座敷、警護する供侍たちのための控の間などが設けられています。土間と納戸、お勝手などは昔の屋敷そのままの造りです。築山という名称の庭園には徳川家から拝領したドウダンツツジや泰山木も植えられています。また、小原宿から隣の吉野宿まで主に庶民を乗せたという竹編みの軽い駕籠や、税金や書類を入れて江戸まで運んだ長持も展示されています。

そのほか、私たちの世代には馴染み深い昔の道具も展示されています。小麦やそばを粉にするための石うす、採り入れた麦や稲の実を穂から取り分ける千歯、かつては農家でよく見られた蚕から取った糸で絹の布を織る機織などは懐かしい思いを誘います。夏に使う涼しそうな竹屏風、ご飯が冷めないようにするためのおひつ入れ、つい最近まで荷物の運搬に欠かせなかった大八車も見られます。(相模原市発行のパンフレット「小原宿本陣」を参考に記述しました)。

県内で一つだけ現存するこの重要な文化遺産を多くの人に知ってもらい、小原地域の活性化に生かすため、平成六年から住民の方々を中心になって「甲州街道 小原宿本陣祭」が行われています。その名のとおり、馬に乗った大名、お姫様、供侍、腰元、奴など40

人ほどの行列が甲州道中を華やかに彩り、近隣ではほかに見られない時代絵巻を繰り広げます。色鮮やかな衣裳の数々や毛槍、日傘などがかつての大名行列そのままの姿を今によみがえらせ、練習を重ねた奴の舞も見物客の目を楽しませます。昔の宿傷町のおもかげを残している町並みは祭り気分がいっぱいで、家ごとにかつての屋号を記した表札を掲げるなど江戸時代の雰囲気盛り上げます。昨年で十五回めとなりましたが、由緒ある本陣を拠点にした華麗なイベントだけに毎年見物客が増えていると聞いています。

毎年十一月三日(文化の日)に行われ、本陣では野点や大名茶会などのゆとりあふれる催しが来傷者をもてなし、地域の歴史を紹介する写真展、地元特産物の販売、大道芸といったプログラムも盛り込まれています。

もともと相模湖町制四十周年の記念事業として始まったそうですが、実現にこぎつけただけでなく、今まで受け継いで来た地元住民の方々にはさぞかしご苦労があることと思います。地域の歴史遺産を今に生かし、多くの人に甲州道中沿いのかつての宿場町に親しみを感じてもらおうという本陣祭がますます多くの参観者を集め、いつまでも続くように希望してやみません。

なお、小原本陣のすぐそばに、相模湖町の歴史資料や文化財などを常設展示している「小原の郷」があります。本陣と合わせてぜひ足をお運び下さい。